

## 平成18年度独立行政法人国立美術館年度計画

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
にとるべき措置

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

#### (1) 多様な鑑賞機会の提供

常設展，企画展及び企画上映を次のとおり実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

本館常設展「近代日本の美術」展 他 5回展示替え

目標入館者数：19万5千人

「藤田嗣治展」

期間：平成18年3月28日(火)～5月21日(日)

(50日間(うち平成18年度46日間))

共催：NHK，NHKプロモーション，日本経済新聞社

目標入館者数：14万9千人(うち平成18年度中は，14万1千人)

「吉原治良展」

期間：平成18年6月13日(火)～7月30日(日)(42日間)

共催：朝日新聞社

目標入館者数：1万3千人

「モダン・パラダイス」展

期間：平成18年8月15日(火)～10月15日(日)(54日間)

共催：大原美術館，日本経済新聞社

目標入館者数：6万7千人

「揺らぐ近代：日本画と洋画のはざまに」展

期間：平成18年11月7日(火)～12月24日(日)(42日間)

共催：京都国立近代美術館

目標入館者数：1万4千人

「写真の現在3」展

期間：平成18年10月31日(火)～12月24日(日)(48日間)

会場：ギャラリー4

目標入館者数：1万6千人

「都路華香展」

期間：平成19年1月19日(金)～3月4日(日)(39日間)

共催：京都国立近代美術館

目標入館者数：1万2千人

「燦光展」

期間：平成19年3月30日(金)～5月27日(日)

(53日間(うち平成18年度2日間))

共催：毎日新聞社

目標入館者数：2万8千人(うち平成18年度中は、1千人)

目標入館者数計：45万9千人

<工芸館>

工芸館常設展「近代工芸の名品」 他 1回展示替え

目標入館者数：1万7千人

「三輪壽雪展」

期間：平成18年7月15日(土)～9月24日(日)(62日間)

目標入館者数：1万5千人

共催：朝日新聞社

「日本のアート・ジュエリー」

期間：平成18年10月7日(土)～12月10日(日)(56日間)

目標入館者数：9千人

「松田権六展」

期間：平成18年12月19日(火)～平成19年2月25日(日)(57日間)

目標入館者数：1万3千人

共催：毎日新聞社

「柳 宗理展」

期間：平成19年1月19日(金)～3月4日(日)(39日間)

目標入館者数：1万4千人

会場：ギャラリー4

「岡部嶺男展」

期間：平成19年3月6日(火)～5月20日(日)

(66日間(うち平成18年度23日間))

目標入館者数：1万4千人(うち平成18年度中は、5千人)

目標入館者数計：7万3千人

本館・工芸館目標入館者総数：53万2千人

<フィルムセンター>

[上映会]

(大ホール)

「シナリオ作家 新藤兼人」

期間：平成18年4月4日(火)～5月28日(日)(48日間)

目入館者数：2万1千人

「NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い」

期間：平成18年6月6日(火)～7月2日(日)(24日間)

共催：東京日仏学院

目標入場者数：6千5百人

「ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭」

期間：平成18年7月4日(火)～7月30日(日)(24日間)

共催：ロシア・ソビエト映画祭実行委員会

目標入場者数：6千人

「日本映画史横断 日活アクション映画の世界」

期間：平成18年8月1日(火)～9月24日(日)(47日間)

目標入場者数：1万5千人

「2006日豪交流年 オーストラリア映画祭」

期間：平成18年10月3日(火)～10月29日(日)(24日間)

共催：オーストラリア映画協会

目標入場者数：3千5百人

「没後50年 溝口健二再発見」

期間：平成18年10月31日(火)～11月16日(木)

期間：平成18年11月28日(火)～12月27日(水)(計41日間)

目標入場者数：1万6千人

「第7回東京フィルメックス 岡本喜八監督特集」

共催：特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会

期間：平成18年11月18日(土)～11月26日(日)(8日間)

目標入場者数：3千5百人

「日本映画史横断 歌謡・ミュージカル映画」

期間：平成19年1月5日(金)～2月4日(日)(27日間)

目標入場者数：6千5百人

「シリーズ・日本の撮影監督(2)」

期間：平成19年2月6日(火)～3月31日(土)(47日間)

目標入場者数：1万5千人

(小ホール)

「映画の教室2006」

期間：平成18年5月5日（金）～5月28日（日）（12日間）

目標入場者数：1千5百人

「2005年度アンコール特集」

期間：平成18年7月7日（金）～7月23日（日）（9日間）

目標入場者数：1千人

「美術監督 水谷浩特集」

期間：平成18年9月8日（金）～9月24日（日）（9日間）

目標入場者数：1千人

「NFC所蔵映画による企画上映（内容未定）」

期間：平成18年10月～11月（9日間）

目標入場者数：1千人

「CHANBARA 市川右太衛門」

期間：平成19年2月16日（金）～3月4日（日）（9日間）

目標入場者数：1千人

上映会目標入場者数計：9万8千5百人

#### [ 展覧会 ]

「生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事」（併設：展覧会 映画遺産）

期間：平成18年4月4日（火）～9月24日（日）（144日間）

目標入場者数：6千5百人

「生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界」（併設：展覧会 映画遺産）

期間：平成18年10月3日（火）～平成19年3月31日（土）（147日間）

目標入場者数：5千5百人

展覧会目標入場者数計：1万2千人

上映会・展覧会の目標入場者総数：11万5百人

#### （京都国立近代美術館）

コレクション展「近代の美術・工芸・写真」（305日間）7回展示替え

目標入館者数：12万3千人

「エルンスト・バルラ八展」

期間：平成18年2月21日（火）～4月2日（日）

（36日間（うち平成18年度2日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：2万人（うち平成18年度中は、1千人）

「フンデルトヴァッサー展」

期間：平成18年4月11日（火）～5月21日（日）（37日間）

共催：NHK京都放送局，NHKきんきメディアプラン

目標入館者数：2万人

「藤田嗣治展」

期間：平成18年5月30日（火）～7月23日（日）（48日間）

共催：NHK京都放送局，NHKきんきメディアプラン，日本経済新聞社，  
京都新聞社

目標入館者数：7万5千人

「富本憲吉展」

期間：平成18年8月1日（火）～9月10日（日）（36日間）

共催：朝日新聞社

目標入館者数：1万9千人

「プライス・コレクション 若冲と江戸絵画展」

期間：平成18年9月23日（土）～11月5日（日）（38日間）

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：2万5千人

「都路華香展」

期間：平成18年11月17日（金）～12月24日（日）（33日間）

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万3千人

「揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに」

期間：平成19年1月10日（水）～2月25日（日）（41日間）

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万人

「アールデコの時代 - シャルル・ジャコとカルティエのジュエリー」

期間：平成18年3月6日（火）～4月15日（日）

（36日間（うち平成18年度23日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：2万5千人（うち平成18年度中は，1万6千人）

目標入館者数計：30万2千人

（国立西洋美術館）

常設展

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」

「近・現代絵画と彫刻」

版画作品展「芸術家とアトリエ（平成18年春）」

版画作品展「ブラングウィン展（平成18年秋）」

版画作品展「新収版画作品展（平成19年春）」

Fun with Collection '06「いろいろメガネ Part2 - みんなの見方紹介します」

目標入館者数：26万6千人

「ロダンとカリエール」

期間：平成18年3月7日（火）～6月4日（日）

（79日間（うち平成18年度57日間））

共催：毎日新聞社・TBS

目標入館者数：16万9千人（うち平成18年度中は、14万3千人）

\*会期終了後、一部内容を変更してオルセー美術館（仏）へ巡回

期間：平成18年6月11日（日）～10月1日（日）

「ベルギー王立美術館展」

期間：平成18年9月12日（火）～12月10日（日）（78日間）

共催：読売新聞社

目標入館者数：25万2千人

「イタリア初期銅版画展」

期間：平成19年3月6日（火）～5月6日（日）

（55日間（うち平成18年度23日間））

目標入館者数：3万人（うち平成18年度中は、9千人）

目標入館者数計：67万人

（国立国際美術館）

常設展「コレクション1～4」他 4回展示替え

目標入館者数：13万9千人

「プーシキン美術館展」

期間：平成18年1月11日（水）～4月2日（日）

（71日間（うち平成18年度2日間））

共催：朝日新聞社

目標入館者数：6万人（うち平成18年度中は、1万人）

「ジグマー・ポルケ展 不思議の国のアリス」

期間：平成18年4月18日（火）～6月11日（日）（49日間）

目標入館者数：1万人

「三つの個展：伊藤存，今村源，須田悦弘」

期間：平成18年6月27日（火）～9月18日（月・祝）（73日間）

目標入館者数：1万3千人

「金子潤展」

期間：平成18年7月29日（土）～9月18日（月・祝）（45日間）

目標入館者数：9千人

「小川信治展」

期間：平成18年9月30日（火）～12月24日（日）（74日間）

目標入館者数：1万5千人

「エッセンシャル・ペインティング」展

期間：平成18年10月3日（火）～12月24日（日）（72日間）

目標入館者数：1万5千人

「ピカソの版画と陶芸」展

期間：平成19年1月13日（土）～3月25日（日）（62日間）

目標入館者数：8万7千人

「大阪コレクションズ」展

期間：平成19年1月16日（火）～3月25日（日）（60日間）

共催：朝日新聞社

目標入館者数：8万7千人

目標入館者数計：38万5千人

（国立新美術館）

「開館記念展：20世紀美術探検 - アーティストたちの三つの冒険物語（仮称）」

期間：平成19年1月～3月（予定）

目標入館者数：10万人

「異邦人たちのパリ1900 - 2005（仮称）」

期間：平成19年2月7日（水）～5月7日（月）

（78日間（うち平成18年度46日間））

共催：朝日新聞社，テレビ朝日

目標入館者数：20万人（うち平成18年度中は，12万人）

目標入館者数計：22万人

（2）入館者に対するアンケート調査を実施し，そのニーズや満足度を分析し，それらを展覧会等に反映させる。

（3）全国の公私立美術館等と連携して，次の地方巡回展及び優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

国立美術館巡回展

期間：平成18年11月3日（金・祝）～12月17日（日）

会場：石橋美術館（福岡県）

国立美術館担当館：京都国立近代美術館

## 各館の巡回展

### ア．東京国立近代美術館工芸館巡回展

#### a．「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」

期間：平成18年9月9日(土)～10月8日(日)

会場：倉敷市立美術館(岡山県)

#### b．「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」

期間：平成18年10月20日(金)～11月26日(日)

会場：廿日市市美術館(広島県)

### イ．京都国立近代美術館巡回展

#### a．「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成18年4月22日(土)～5月28日(日)

会場：平塚市美術館(神奈川県)

#### b．「京都国立近代美術館所蔵洋画巡回展」

期間：平成18年7月22日(土)～8月27日(日)

会場：そごう美術博物館(神奈川県)

#### c．「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成18年8月25日(金)～10月1日(日)

会場：富山県水墨美術館(富山県)

#### d．「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成18年10月6日(金)～11月19日(日)

会場：大分市美術館(大分県)

ウ．国立西洋美術館は、地方巡回展の実施について検討する。

### エ．国立国際美術館

#### 「大阪コレクションズ」展

期間：平成19年1月～3月(予定)

会場：大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室

### 優秀映画鑑賞推進事業

フィルムセンターにおいて文化庁との共催により各地の公共文化施設と連携・協力し、22プログラム(4作品1プログラム)を巡回・上映する。

期間：平成18年7月16日(日)～平成19年3月16日(金)

会場：全国130会場以上



(4) 常設展の充実をアピールしながら、広報にも努め、その社会的認知度の向上に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

10回程度の小、中規模の特集企画展を行い、チラシやインターネットを駆使した広報を行う。

常設展音声ガイドの平成19年度導入に向けシステムとソフトを制作する。

昨年度開始した写真作品のプリントスタディー制度の周知に努める。

読売新聞連載「近代美術の東京」への協力を継続する。

昨年度開始した所蔵作家による自作解説(アーティストトーク)の充実を図り、現代美術の普及に努める。

ホームページ、メールマガジン、新聞雑誌広告など多様な広報を展開する。

<工芸館>

常設展の充実を図るため、常設展展示スペースの拡充策を検討する。

各回の展示期間中、「人間国宝・巨匠コーナー」を設け、常に国内外の工芸、デザインの名品を観覧に供し、その広報にも努める。

常設展音声ガイドの導入を検討する。

ホームページ、メールマガジン、新聞雑誌広告など多様な広報を展開する。

「月刊チャイム銀座」、「茶道誌淡交」に所蔵作品を紹介。また「I CLUB」に展覧会情報を掲載する。

<フィルムセンター>

ホームページ、メールマガジンによる常設展広報の充実のほか、新聞、雑誌等への掲載など多様な広報に努める。

大ホールのホワイエにおける企画上映関連のポスター展示を定例化して、紙資料コレクションの公開率向上を図る。

(京都国立近代美術館)

企画展と関連した小企画及びコレクション展単独での特集企画を行い、その広報も積極的に行う。

(国立西洋美術館)

テーマを設けた版画・素描コレクション展を春期及び秋期に開催し、その広報にも努める。

常設展の作品を活用した「Fun with Collection」を開催し、常設展の充実を図る。

ホームページの常設展広報の充実のほか、新聞、雑誌等への掲載など多様な広報を展開する。

版画素描閲覧室を開室し、外部の研究者・専門家へ、常時展示をしていない版画・素描作品の公開を行う。

( 国立国際美術館 )

ホームページ，新聞，雑誌等への掲載など各方面への広報を展開する。  
年4回の展示替えによる代表的な所蔵作品の展示に努める。  
特別展の開催に合わせ，関連作品の展示を行う。  
特定のテーマを設定し，現代美術の普及に努める。

( 5 ) 国立新美術館では，平成19年度からの美術団体等への展覧会(公募展)会場提供事業の開始に向け，次のような業務を行う。

美術団体等が作品搬入・審査等を行う作品整理・審査室及び審査室(彫刻)等について，団体間の利用調整を行う。

使用方法等についての資料を作成し，施設を使用する美術団体等への周知徹底を図る。

施設・備品等の効率的運用を図るために，バックヤード等施設・備品等の運用に関するワーキンググループ委員会を計画的に開催する。

また，平成20年度以降の展覧会(公募展)会場提供事業の準備として，次の業務を行う。

平成20年度に施設を使用する美術団体等の決定

平成21年度に施設を使用する美術団体等の募集

( 6 ) メディアアートなど，国際的にも注目される新しい領域の芸術表現作品の展覧会について検討する。

( 7 ) 法人及び各館のホームページを積極的に活用して，情報の提供に積極的に取り組む。

平成18年度は，特に次の事業を実施する。

( 東京国立近代美術館 )

< 本館・工芸館 >

「広報能力の強化」，「データの蓄積化」，「必要な情報にアクセスしやすいデザイン」の視点に立って，日本語版ホームページのリニューアルを進める。

海外への情報発信の強化のため，英語版ホームページにおけるデータの蓄積化を進める。

企画展の割引入場引換券を掲載する。

インターンシップ募集等の情報を掲載する。

< フィルムセンター >

引き続き，所蔵映画フィルム検索システムへデータの集積を図るとともに，ホームページでの公開を行う。

インターンシップ募集等の事業案内情報を掲載する。

( 京都国立近代美術館 )

展覧会図録を寄贈している , 北隣の京都府立図書館の蔵書リストを当館ホームページに掲載し , 随時更新する。

所蔵作品 , 展覧会情報 , 講演会 , 教育普及事業等のイベント情報を掲載する。

日本語・英語版ホームページのリニューアル及び充実を図る。

インターンシップの事業内容を掲載する。

( 国立西洋美術館 )

コレクション , 展覧会情報 , 講演会・スライドトーク等のイベント情報等を掲載し , 適切な更新を図る。

海外からのアクセスに対応した英語版ホームページを整備する。

視覚障害者向け音声案内機能 , 携帯電話用 ( i モード等 ) コンテンツ等の作成による , 広報機能の充実を図る。

インターンシップ募集等の事業案内情報を掲載する。

企画展の割引入場引換券を掲載する。

所蔵図書データを公開する。

( 国立国際美術館 )

所蔵作品 , 展覧会情報 , 講演会 , 教育普及事業等のイベント情報を掲載する。

英語版ホームページの充実を図る。

インターンシップ及びボランティアの事業内容を掲載する。

( 国立新美術館 )

開館に向け , 自館開催の展覧会に関する情報をはじめ , 教育普及事業 , 情報収集・提供事業など , 館の事業情報等を広く普及及び広報するため , ホームページの内容を充実する。

( 8 ) 国内外の美術館等と図書を交換することにより , 資料の積極的収集を図る。

( 9 ) 情報コーナー , アートライブラリ , 資料閲覧室等において , 情報サービスの提供を実施する。

平成 18 年度は , 特に次の事業を実施する。

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館において , A L C ( 美術図書館連絡会 ) , N A C S I - C A T ( 国立情報学研究所目録所在情報サービス ) に参加し , 横断検索システムでの所蔵図書データの検索を可能とする。国立新美術館は平成 18 年度から新たに , A L C 及び N A C S I S - C A T に参加する。

国立国際美術館においては , 引き続き情報コーナーに配置する刊行物その他関連

資料等の充実に努める。

国立新美術館においては、美術に関する様々な情報を公開するためのアートライブラリー及びアート commons を開設する。

国立新美術館においては、日本国内の美術館等で開催される展覧会に関する情報を収集し、インターネットを介して提供するサービスを開始する。

- (10) 所蔵作品のデータのデジタル化を推進し、多様なコンテンツの提供を実施する。平成18年度は、特に次の事業を実施する。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを本版として、引き続き公開するとともに、文字データ、画像データの拡充に努める。

の独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムの英語版本版を公開し、海外からのアクセスをより簡便なものにする。

引き続き文化庁が行う「文化遺産オンライン構想」に参加し、の独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムから、一括してデータを提供することによって、「文化遺産オンライン構想」での公開所蔵作品情報の充実に努める。

- (11) 国立美術館全体の機能として、IDC（インフォメーションデータセンター）を確立する。

- (12) 子どもから高齢者までを対象とした幅広い教育普及事業に積極的に取り組む。平成18年度は、特に次のような事業を実施する。

児童・生徒、教職員対象事業

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア．小・中・高校からの要請に応じた、児童・生徒へのギャラリートークやガイダンス

イ．小・中学生対象の鑑賞プログラム（夏休み）を実施、その実践例の教職員への提供

ウ．小・中・高校の教職員を対象に、企画展の解説や鑑賞機会を提供（年2回程度）

エ．全国の教育関係者を対象とした、鑑賞教育に関する研修（夏期に3日間）

<工芸館>

ア．美術大学などの教師、学生の特別観覧（熟覧）の推進

イ．児童・生徒を対象とした陶芸作品制作を通し、工芸作品の鑑賞教育のモデルケース及び鑑賞教育教材を開発

<フィルムセンター>

ア．映画鑑賞に展覧会鑑賞やギャラリートーク等を加えた「こども映画館」事業の拡充

イ．相模原市内の小・中学校からの要請を受けた，フィルムセンター相模原分館における「小・中学生向け上映会」（3回）

（京都国立近代美術館）

ア．学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会の受入れの促進  
イ．教員やNPO団体の美術館利用プログラムに対する支援  
ウ．学校，各種団体からの要請による解説の受入れ

（国立西洋美術館）

ア．Fun with Collection '06「いろいろメガネ Part2 - みんなの見方紹介します」（随時），これに関連した「創作・体験プログラム」（4回）  
イ．「先生のための観賞プログラム」（小・中・高等学校の教員対象）（3回）  
ウ．ファミリー・プログラム「びじゅつーる」の貸し出し（12回）  
エ．ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」（16回）  
オ．「スクールギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）（予約制）

（国立国際美術館）

ア．鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（1回）  
イ．鑑賞実践プログラムに関連した「こどもびじゅつあー」（6回）  
ウ．鑑賞支援制作プログラムに関連した「こどものためのワークショップ」（4回）  
エ．学校団体鑑賞の受入れ  
オ．教員研修（予約制）

（国立新美術館）

子どもを対象とした作家とのワークショップ（1回）

講演会・ギャラリートーク等

（東京国立近代美術館）

<本館>

ア．「藤田嗣治展」に関する講演会等（3回）  
イ．「吉原治良展」に関する講演会等（4回）  
ウ．「モダン・パラダイス」展に関する講演会（2回）  
エ．「揺れる近代 - 日本画と洋画のはざまに」展に関する講演会等（2回）  
オ．「写真の現在 3」展に関するギャラリートーク（2回）  
カ．「都路華香展」に関するギャラリートーク（1回）  
キ．研究員による常設展の「フライデー・トーク」（毎月1回）  
ク．研究員によるテーマ解説「キュレーター・トーク」（年20回）

ケ．ガイドスタッフ（ボランティア）による，常設展の所蔵作品ガイド（毎日）  
及び「ハイライト・ツアー」（無料観覧日である毎月第1日曜日）

コ．常設展における自作解説「アーティスト・トーク」（年5回）

<工芸館>

ア．「三輪壽雪」展に関するギャラリートーク（4回）

イ．「三輪壽雪」展に関するアーティストトークおよび制作デモンストレーション（1回）

ウ．「現代のジュエリー」展に関するギャラリートーク（4回）

エ．「現代のジュエリー」展に関する講演会（1回）

オ．「現代のジュエリー」展に関するパフォーマンス・イベント（1回）

カ．「松田権六」展に関するギャラリートーク（3回）

キ．「柳宗理」展に関するギャラリートーク（3回）

ク．「岡部嶺男」展に関するギャラリートーク（平成18年度中1回，全4回）

ケ．ガイドスタッフ（ボランティア）による，展示解説と類似作品に触れる鑑賞教室（毎週水曜日・土曜日に実施）

<フィルムセンター>

ア．「シナリオ作家 新藤兼人」に関する講演会（2回）

イ．展覧会「美術監督 水谷浩の仕事」に関するギャラリートーク（3回以上）

ウ．展覧会「衣笠貞之助の世界」に関するギャラリートーク（3回以上）

（京都国立近代美術館）

ア．「エルンスト・バルラ八展」に関する講演会（2回），戯曲の朗読会（1回）

イ．「フンデルトヴァッサー展に関する講演会（1回）

ウ．「藤田嗣治展」に関する講演会（2回）

エ．「富本憲吉展」に関する講演会（1回）

オ．「プライス・コレクション若冲と江戸絵画展」に関する講演会（2回）

カ．「都路華香展」に関する講演会（2回）

キ．「揺らぐ近代 - 日本画と洋画のはざまに」に関する講演会（1回）

（国立西洋美術館）

ア．「ロダンとカリエール」に関する講演会（2回），スライドトーク（4回）

イ．「ベルギー王立美術館展」に関する講演会（3回），スライドトーク（5回）

ウ．「イタリア初期銅版画展」に関する講演会（1回），ギャラリートーク（1回）

エ．「ロダンとカリエール」に関連する音楽プログラム（1回）

（国立国際美術館）

ア．「ジグマー・ポルケ展」に関する講演会（1回），ギャラリートーク（2回）

- イ．「三つの個展：伊藤存，今村源，須田悦弘」に関する講演会（３回），ギャラリートーク（２回）
- ウ．「金子潤展」に関する講演会（１回），ギャラリートーク（１回）
- エ．「小川信治展」に関する講演会（１回），ギャラリートーク（１回）
- オ．「エッセンシャル・ペインティング」展に関する講演会（１回），ギャラリートーク（１回）
- カ．「ピカソの版画と陶芸」展に関する講演会（１回），ギャラリートーク（１回）
- キ．「大阪コレクションズ」展に関する講演会（１回），ギャラリートーク（２回）

（国立新美術館）

- ア．「開館記念展：２０世紀美術探検 - アーティストたちの三つの冒険物語（仮称）」に関する講演会・ギャラリートーク等（２回）
- イ．「異邦人たちのパリ１９００ - ２００５（仮称）」に関する講演会・ギャラリートーク等（２回）

（１３）ボランティアや支援団体の育成と相互協力を実施する。

ボランティア制度

（東京国立近代美術館）

<本館>

引き続き所蔵作品の解説ボランティア（ガイドスタッフ）の活動の充実を図るとともに，小・中学生向けの鑑賞プログラムを実施する。

<工芸館>

各所蔵作品展及び企画展の解説ボランティアの活動の充実を図る。

（京都国立近代美術館）

「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会等との連携による，ボランティアを受入れ，活動の充実を図る。

（国立西洋美術館）

ボランティアスタッフによる，美術教育プログラム（ファミリープログラム）及び小・中・高校生の団体を対象とした常設展でのスクール・ギャラリートークを実施する。

（国立国際美術館）

学生ボランティアを受入れる。

(国立新美術館)

ボランティアの導入を検討する。

友の会等活動の検討，実施

(東京国立近代美術館)

ア．賛助会員制度をさらに展開する。

イ．パスポート会員の募集を開始する。

(京都国立近代美術館)

友の会の活動において次の事業を展開する。

ア．京都市立芸術大学との連携による定期演奏会

イ．見学会

ウ．ワークショップ

(国立国際美術館)

会員参加型のイベントの開催等，活動内容等の充実を図る。

(国立新美術館)

賛助会員制度及び友の会制度の導入を検討する。

(14) 企業とのタイアップによる前売券の発券，企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等，企業との連携を進める。

(東京国立近代美術館・国立西洋美術館)

東京地下鉄株式会社，小田急電鉄株式会社，東武鉄道株式会社，東京急行電鉄株式会社と連携し，周遊券(一日乗車券)利用者の観覧料金の割引を実施

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

「Weekly ぴあ」(発行：ぴあ(株))，ホームページ「美術館.com」(運営：(株)日本スタデオ)に展覧会情報を掲載

東京地下鉄株式会社が発行する「メトロニュース」等の情報誌及びチラシに展覧会情報を掲載

東京地下鉄株式会社等の各駅及び車両内の周遊券(一日乗車券)広報媒体へ，美術館情報を掲載

京王エージェンシーとの協力により，展覧会ポスターを沿線主要駅等に掲出  
本館，工芸館の最寄り駅である東京メトロ東西線竹橋駅の協力により，展覧会ポスターの掲出及びチラシを配布

本館では助成金により，所蔵品ギャラリーフロアガイド外国語版を作成，外



国人観覧者へ配布

<フィルムセンター>

「Weeklyぴあ」（発行：ぴあ（株））、「Movie Walker」（発行：ワークス・エム・プロス）ほかの情報雑誌・インターネットマガジンに上映・展示情報を掲載

（京都国立近代美術館）

「JAF Mate」（発行：（社）日本自動車連盟）、「PASS」（発行：朝日友の会）、「HANA PLUS ご優待ガイド」（発行：（株）阪急カード）、「e-kenet LETTER」（発行：（株）京阪カード）、「resoNAVI」（発行：（株）リロクラブ）」に展覧会情報を掲載。同時に割引を実施  
大学等と協定を締結し、学生に対する割引を実施  
英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：（財）大阪21世紀協会）展覧会情報を掲載。外国人旅行者に対する普及広報を実施  
（財）京都市駐車場公社と連携し、岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し、駐車場料金の割引を実施

（国立西洋美術館）

地域企業と連携し、広報誌「うえの」（発行：上野のれん会）、「Weekly Matsuzakaya」（発行：上野松坂屋）に展覧会情報を掲載  
「Weeklyぴあ」（発行：ぴあ（株））に展覧会情報を掲載  
東京地下鉄株式会社が発行する「メトロニュース」等の情報誌及びチラシに展覧会情報を掲載  
東京地下鉄株式会社等の各駅及び車両内の周遊券（一日乗車券）広報媒体へ、美術館情報を掲載  
京王エージェンシーとの協力により、展覧会ポスターを沿線主要駅等に掲出  
携帯電話待受画像サービスサイト（（株）イーピクチャーズ）と連携し、所蔵作品の携帯電話待受画像を配信  
助成金により広報印刷物を作成、観覧者へ配布

（国立国際美術館）

「JAF Mate」（発行：（社）日本自動車連盟）、「アサヒメイト」（発行：朝日友の会）、「HANA PLUS ご優待ガイド」（発行：（株）阪急カード）、「e-kenet LETTER」（発行：（株）京阪カード）、「レインボウファミリー」（発行：大阪市交通局）に展覧会情報を掲載。同時に割引を実施  
英語・日本語併記の情報誌「MEET OSAKA」（発行：（財）大阪21世紀協会）に展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施  
近隣ホテル（リーガロイヤルホテル、ホテル阪急インターナショナル等）と連

携し，広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施  
各種広報媒体に対する展覧会情報の掲載を積極的に進め，より効果的な普及広報を図る  
コンサート等イベントの開催  
チケットぴあ等による前売券の発売

( 国立新美術館 )

各種広報媒体へ展覧会情報の掲載を積極的に進め，より効果的な普及広報を図る。

( 15 ) 他の機関が実施する次の事業への参加及び協力を実施する。

( 東京国立近代美術館 < 本館・工芸館・フィルムセンター > ・国立西洋美術館 )

東京の美術館・博物館等 49 館で実施する共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加する。

( 東京国立近代美術館 < 本館・工芸館 > ・国立西洋美術館 )

東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し，外国人旅行者に対して常設展の割引を実施する。

( 京都国立近代美術館・国立国際美術館 )

関西の美術館・博物館等 65 館で実施する共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西 2006」に参加する。

( 国立西洋美術館 )

上野の山を芸術・文化の拠点として発展させることを目的とした台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」及び「上野地区観光まちづくり推進会議」へ参加する。また，国際博物館の日（5月18日）に上野地区の諸機関と連携して共同イベントを開催する。

( 国立新美術館 )

新たな芸術拠点として注目される六本木地区の美術館等との連携・協力の在り方を検討する。

( 16 ) 次の調査研究を計画的に実施，その成果を美術館活動に反映させる。

( 東京国立近代美術館 )

< 本館 >

「戦後の日本における芸術とテクノロジー」（科学研究費補助金）3年目所蔵作品を中心とした近・現代美術に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

美術館情報システムに関する調査研究

藤田嗣治に関する研究（京都国立近代美術館，広島県立美術館との共同研究）

吉原治良に関する調査研究（大阪市立近代美術館建設準備室，愛知県美術館，宮城県立美術館との共同研究）

日本画と洋画の表現・技法の影響関係に関する調査研究（京都国立近代美術館との共同研究）

日本の現代写真に関する調査研究

都路華香に関する調査研究（京都国立近代美術館との共同研究）

靨光に関する調査研究（広島県立美術館，宮城県美術館との共同研究）

アンリ・カルティエ＝ブレッソンを始めとする戦後写真の調査研究

平山郁夫の調査研究（広島県立美術館との共同研究）

近代日本彫刻史の調査研究（三重県立美術館，宮城県美術館との共同研究）

ウィリアム・ケントリッジにおける絵画とアニメーションの関係に関する調査研究（京都国立近代美術館との共同研究）

#### < 工芸館 >

三輪壽雪に関する調査研究

松田権六に関する調査研究

岡部嶺男に関する調査研究

現代ジュエリーについての調査研究

現代工芸における制作の特質についての調査研究

戦後プロダクトデザインの成立と展開についての調査研究

#### < フィルムセンター >

日本映画の所在調査（映画製作者及び国内外同種機関の協力により，存在が確認できていない昭和20年代から30年代の映画フィルムの所在調査を行う。）

映画文化に関する国際交流（国際フィルムアーカイブ連盟（F I A F）が実施する映画保存等に関する調査研究プロジェクトに参加するとともに，会員間のネットワークを活用して，映画保存及び復元等に関する調査研究を行う。）

新藤兼人に関する調査研究

古典期フランス映画に関する調査研究

ロシア・ソビエト映画に関する調査研究

日活アクション映画に関する調査研究

オーストラリア映画に関する調査研究

溝口健二に関する調査研究

日本の歌謡映画・ミュージカル映画に関する調査研究

日本の撮影監督に関する調査研究

市川右太衛門に関する調査研究

児童・生徒向けの映画教育に関する研究

水谷浩に関する調査研究

衣笠貞之助に関する調査研究

第63回FIAF会議（東京・2007）に関する調査研究

（京都国立近代美術館）

藤田嗣治に関する調査研究（東京国立近代美術館・広島県立美術館との共同研究）

富本憲吉に関する調査研究（岐阜県現代陶芸美術館との共同研究）

都路華香に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

日本画と洋画の表現・技法の影響関係に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

カルティエ所蔵のジュエリー作品に関する調査研究（東京都庭園美術館との共同研究）

フンデルトヴァッサーと建築及び環境芸術の関わりに関する調査研究

海外流出の近世日本画に関する調査研究

福田平八郎に関する調査研究

シビル・ハイネンの作品における現代テキスタイルアートの彫刻的展開に関する調査研究

ロシアバレエを例とした総合芸術としての舞台芸術の調査研究

八木正・文承根を中心として1970～80年代、関西におけるミニマリズムの再検証に関する調査研究（千葉市美術館との共同研究）

麻田浩に関する調査研究

ザウリとイタリア陶芸に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

ウィリアム・ケントリッジにおける絵画とアニメーションの関係に関する調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

玉村方久斗と昭和初期日本画の新動向に関する調査研究（神奈川県立近代美術館との共同研究）

ドイツのグラフィックに関する調査研究（宇都宮美術館との共同研究）

所蔵日本画・洋画作品に関する調査研究

（国立西洋美術館）

旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

西洋美術作品の修復に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

館蔵資産の資源化に関する調査研究

ロダン・カリエールと19世紀フランス象徴主義に関する調査研究

フランドル絵画及び近代ベルギー絵画に関する調査研究

イタリア・ルネサンス時代の版画に関する調査研究

16～17世紀のパルマを中心とした美術の調査研究  
19世紀フランスを中心とした「芸術家とアトリエ」の表象に関する調査研究  
ブラングウィンに関する調査研究  
「16～17世紀西欧における版画出版と古代の受容」（科学研究費補助金）  
4年目  
「火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」（科学研究費補助金）3年目  
「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」（科学研究費補助金）  
3年目

（国立国際美術館）

美術館教育に関する調査研究  
ジグマー・ポルケに関する調査研究  
伊藤存，今村源並びに須田悦弘に関する調査研究  
金子潤に関する調査研究  
小川信治に関する調査研究  
国際的な現代絵画の動向に関する調査研究  
ピカソに関する調査研究  
所蔵作品に関する調査研究  
メディアアートに関する調査研究

（国立新美術館）

20世紀美術における物質文明の影響についての調査研究  
現代美術における物質文明の影響についての調査研究  
エコール・ド・パリについての調査研究  
現代フランス美術における多文化主義についての調査研究  
クロード・モネについての調査研究  
現代の建築とファッションにおける近似的な表現についての調査研究  
官展史および日展史に関する調査研究  
戦後日本の現代美術資料についての調査研究  
17世紀 - 19世紀におけるオランダ風俗画についての調査研究  
フェルメールについての調査研究  
横山大観についての調査研究  
モディリアーニとプリミティヴィズムについての調査研究  
エミリー・カーメ・クンワレエについての調査研究  
オーストラリアのアボリジニー美術についての調査研究  
美術館教育に関する調査研究  
日本の近現代美術資料に関する調査研究  
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究

## 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究

### (17) 客員研究員を招聘し、調査研究活動を推進する。

東京国立近代美術館本館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．プリントスタディー制度の運営と充実に向けての調査研究

イ．写真作品の系統的分類、整理および保存に関する調査研究

東京国立近代美術館工芸館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．普及広報、教育活動のあり方の調査研究

イ．作品に触れる鑑賞教室と展示解説を中心としたボランティア活動の調査研究

フィルムセンターにおいて4名を招聘し、次の活動を行う。

ア．所蔵映画フィルムの内、戦前期の日本ニュース映画のデータ分析とカタログ化に関する調査研究

イ．所蔵映画フィルムの内、日本文化・記録映画のデータ化に対する分析及び調査研究

ウ．オーストラリア映画に関する調査研究

エ．海外同種機関等との共同企画等に関する調査研究

オ．第63回F I A F会議（東京・2007）に関する調査研究

京都国立近代美術館において1名を招聘し、次の活動を行う。

写真作品の系統的分類・整理及び保存に関する調査研究

国立西洋美術館において6名を招聘し、次の活動を行う。

ア．美術館教育に関する調査研究

イ．広報事業等に関する指導・助言

ウ．イタリア・ルネサンス時代の版画に関する調査研究

エ．ブランクウィンに関する調査研究

オ．西洋美術作品の保存に関する調査研究

国立国際美術館において1名を招聘し、次の活動を行う。

メディアアートに関する調査研究

国立新美術館において2名を招聘し、次の活動を行う。

ア．美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究

イ．日本の近現代美術資料に関する調査研究

### (18) 快適な観覧環境等の提供に努める。

バリアフリー化、車椅子の提供等入館者サービスに努める。

展示説明の見直しなど、鑑賞環境の充実に努める。

(東京国立近代美術館)

「展覧会案内(ミュージアム・カレンダー)」日本語版および英語版を作成・配付。

<本館>

常設展のセクションと順路の表示の改良を進める。また、1階ロビーではデジ

タル・ディスプレイによる常設展情報の提示を行い、認知度の向上を図る。  
常設展の音声ガイドの制作に着手する。

カラー図版入りの常設展鑑賞手引き「鑑賞ノススメ」を常設展ギャラリーの各階に配置する。

「所蔵作品展フロアプラン（日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語）」を配付する。

< 工芸館 >

フロアプラン，作品名の読み（かな），作品の素材を記載した出品リストを配布する。

常設展音声ガイドの実施を検討する。

鑑賞カードを配布する。

< フィルムセンター >

展覧会の開催に際し，展示作品の出品目録を無料で配布する。

携帯電話サイトによる上映番組案内の発信を行う。

（京都国立近代美術館）

小・中学生に対してガイドブックを無料配布する。

（国立西洋美術館）

国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、韓国語、中国語）を無料配布する。

常設展「フロアプラン」，企画展「作品リスト（日本語、英語）」及び小・中学生向け解説「ジュニアパスポート」を無料配布する。

（国立国際美術館）

展覧会において可能な限り「フロアガイド」を無料配布する。

小・中学生向け解説「ジュニアセルフガイド」を無料配布する。

（国立新美術館）

「フロアガイド」を無料配付する。

（19）入館料及び開館時間の弾力化等により、観覧者の増加を目指すとともに、あわせて入館者サービスの向上を図るため、平成18年度は次のとおり実施する。

小・中学生の常設展料金の無料にあわせ、共催展についての実施を、積極的に共催者に働きかける。

(東京国立近代美術館)

<本館>

近隣観覧施設(国立公文書館,科学技術館,三の丸尚三館)と連携し,「北の丸公園・皇居東御苑文化ゾーン」マップを作成

企画展に際して割引券を発行

年末年始の休館日を12月29日から1月1日に短縮

事前申請による「常設展会場」撮影許可を継続して実施

「藤田嗣治展」会期中の月曜休館日のうち,4月3日と5月1日を開館

<工芸館>

近隣観覧施設(国立公文書館,科学技術館,三の丸尚三館)と連携し,「北の丸公園・皇居東御苑文化ゾーン」マップを作成

企画展に際して割引券を発行

年末年始の休館日を12月29日から1月1日に短縮

本館「藤田嗣治展」会期中の月曜休館日のうち,4月3日と5月1日を開館

<フィルムセンター>

「シナリオ作家 新藤兼人」及び共催上映「第7回東京フィルメックス 岡本喜八監督特集」の開催時において,1日3回上映

「日本映画史横断 日活アクション映画の世界」,「ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭」及び「没後50年 溝口健二再発見」の開催時において,平日は1日2回,土・日・祝日を1日3回上映

小ホールにおいて,「京橋映画小劇場」と題し,試行的に上映会を年間5企画程度(原則として金・土・日のみで,1日2回上映)実施

(京都国立近代美術館)

「フンデルトヴァッサー展」の月曜休館日のうち,5月1日を開館

「富本憲吉展」において大文字・五山送り火の日である8月16日(水)に夜間開館を実施

(国立西洋美術館)

自主企画展「イタリア初期銅版画展」において,割引券を発行

クレジットカードによる入館券販売

企画展「ロダンとカリエール」会期中の月曜休館日のうち,5月1日を開館

Fun with Collection '06「いろいろメガネ Part2 - みんなの見方紹介します」会期中の月曜休館日のうち,8月14日を開館

年始は1月2日(火)から開館

春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について,午後5時の閉館時間を,午後5時30分まで延長



12月に、クリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催

(国立国際美術館)

「ジグマー・ポルケ展 不思議の国のアリス」会期中の月曜休館日のうち、5月1日を閉館

特別展(地下3階)開催中の金曜日の閉館時間について、午後5時の閉館時間を午後7時まで延長

(20)利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。  
フィルムセンターでは、エントランスロビーに開設した「映画の広場」の充実を図る。

国立国際美術館では、地下1階パブリックゾーンにあるキッズルームの充実に努める。

(21)国立新美術館の開館

建物の完成後、移転作業を開始するとともに、開館に向けた備品等の整備、周知活動等に努め、平成19年1月の開館を目指す。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1)中期計画に基づき、次のとおり美術作品等を収集する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

近代日本美術史上の重要作品の収集を続けると同時に、20世紀の主要な国外作家の作品の拡充にも努める。

国内外の現代美術の秀作を収集する。映像作品などの新しい動向にも積極的に取り組む。

近代写真史上の重要作品の系統的収集を進める。

<工芸館>

明治、大正、昭和初期の工芸作品を拡充し、戦後の代表作を系統的に収集する。

近代デザインの形成期である19世紀後半から1930年代頃までのデザイン作品を拡充する。

<フィルムセンター>

企画上映に必要となる作品及び過去3年間に逝去した映画人の代表作を収集する。

散逸が懸念される映画フィルムや劣化が著しく緊急に保存を必要とする映画フィルムを優先的に収集する。

映画史上の重要な作品で、今後劣化が懸念される作品を収集する。

F I A F加盟機関等との国際交流事業にとって必要となる作品を収集する。

デジタル技術を活用して映画フィルムの複製及び修復・復元を図り、その複製物を収集する。

戦後公開された日本劇映画の未収集作品のうち、1940年代から50年代の映画フィルムを中心に収集する。

( 京都国立近代美術館 )

我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で主として美術・工芸について、近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品、近代美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集すると共に、優れた写真作品の収集にも努める。また、併せて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させる。

同館が京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。

( 国立西洋美術館 )

フランス政府との協定に基づき保管と公開を行っている松方コレクションの充実と、中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、次のとおり収集する。

西洋美術における重要な流れを示し得る近世ヨーロッパ絵画等の収集  
各時代を展望し得るヨーロッパ版画の系統的収集

( 国立国際美術館 )

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主として、次のとおり収集する。

1945年以降の日本の現代美術の系統的収集

1945年以降の欧米の現代美術の系統的収集

国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集

( 2 ) 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、常設展等における積極的な活用を図る。

( 3 ) 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

東京国立近代美術館においては、所蔵作品の増大に対応するために、施設の拡充を行う。

- ア．工芸館においては引き続き施設の拡充の検討を行う。
- イ．新たな収蔵スペースを確保するために相模原分館の保有地等の拡充の検討を行う。
- ウ．フィルムセンターにおいては，フィルム保管庫の拡充を検討する。  
京都国立近代美術館においては，収蔵庫の収蔵スペースが許容量を超えているので，ラック及び収蔵棚の増設の検討を行う。

(4) 24時間空調等による作品の保存管理及び館内各所の環境モニターを実施する。

(5) 緊急に処置を必要とする所蔵作品から，分野ごとに計画的に修復を行う。

(6) 国内外の美術館等に対し，修復保存に関する協力と普及の推進を図る。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 各館の調査研究の成果については，研究紀要，図録への論文発表等によって広く発信する。

(東京国立近代美術館)

「平成17年度年報」

「東京国立近代美術館概要」

「東京国立近代美術館研究紀要」

「東京国立近代美術館工芸館陶芸名品図録」

展覧会，企画上映に伴う図録等の発行

「現代の眼」 6回発行

展覧会案内(カレンダー)(和・英) 1回発行

「NFCニューズレター」 6回発行

「NFCカレンダー」 企画毎発行

「尾上松之助講演会」ブックレット

「オーストラリア映画祭」図録

(京都国立近代美術館)

「平成17年度年報」

「京都国立近代美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

美術館ニュース「視る」 6回発行

展覧会カレンダー 3回発行

友の会会報 4回発行

(国立西洋美術館)

「国立西洋美術館年報No. 40」

「国立西洋美術館研究紀要No. 11」

「独立行政法人国立美術館国立西洋美術館要覧」

展覧会に伴う図録の発行

展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」の発行

「国立西洋美術館ニュース(展示予定表掲載)」 4回発行

「独立行政法人国立美術館国立西洋美術館リーフレット」

(国立国際美術館)

「平成17年度年報」

「国立国際美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

展覧会に伴うフロアガイドの発行

「ジュニア・セルフガイド」 1回発行

「美術館ニュース」 6回発行

展覧会案内(和・英) 1回発行

(国立新美術館)

「国立新美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

「美術館ニュース」 2回発行

展覧会案内(カレンダー)

(2) 国内外の研究者を招聘するなどして、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

フィルムセンター

「没後50年 溝口健二再発見」に関するシンポジウム

京都国立近代美術館

「藤田嗣治展」に関するシンポジウム

国立国際美術館

ア. 「エッセンシャル・ペインティング」展に関するシンポジウム

イ. 「大阪コレクションズ」展に関するシンポジウム

(3) それぞれの館の収蔵品について、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

(4) 美術教育のナショナルセンターとして、次の事業を行う。

全国の美術館教育のモデルとなる教材・プログラムの開発に着手。  
全国の教育関係者を対象とした、美術鑑賞教育に関する研修を実施し、地域の中核的人材を育成する（夏期に3日間）。

(5) インターンシップ、キュレーター研修等の事業を実施する。

東京国立近代美術館（本館・工芸館）、京都国立近代美術館においてインターンシップ制度を導入することにより、全館においてインターンシップ制度を実施する。

公私立美術館の要請に応じ、美術館の学芸担当職員等を対象とした「キュレーター研修」を実施し、その専門的知識及び技術の向上を図る。

東京国立近代美術館（工芸館及びフィルムセンター）において、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して西洋美術に関する人材を教育する。

(6) フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、平成18年度は次のとおり実施する。

文化庁が実施する「日本映画情報システム」の運営に主体的に協力する。

国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。

映画関係団体や大学等との連携協力を推進するための会議等を年間2～3回程度主宰する。

文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力する。

フィルムセンターにおいて、大学・専門学校等外部機関との連携による、フィルム上映を伴った映画史・映画芸術講座等を行い、また映画の保存等に関する専門家を養成するための講座開設について検討を行う。

第63回FIAF会議（東京・2007）の開催に向け準備を行う。

(7) フィルムセンターでは、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内における独立した一館となるべく、その機能拡充について、評議員会等において検討を行う。

## 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。
  - 組織の見直しにより、業務の効率化を図る。また、決算業務の一元化について検討を行う。
  - 各館の会計処理システムについて、作業効率の改善を図るため、新規システムの構築と回線の高速化を行う。
  - ネットワークサーバの集中管理化を推進することにより、管理コストの削減を図る。
  - 節水、節電による省エネルギーの推進、廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化及び減量化の推進、並びにLAN及びインターネットの活用によるペーパーレス化を推進する。
  - 教育普及事業の拡充や外部の利用促進に努めることにより、講堂等の利用率の向上を図る。
  - 会場管理業務、設備管理業務、清掃業務等の外部委託を積極的に実施し、業務運営の効率化を図るとともに、外部委託対象業務の範囲拡大及び包括的委託の検討を行う。
  
- 2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善
  - 運営委員会、評議員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
  - 会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り、併せて組織の活性化を図る。
  
- 3 本部にIDCを構築することにより、情報ネットワークの安全性を向上させるための方策を検討する。

## 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

- 1 予算（年度計画の予算）
  - 別紙のとおり。
  
- 2 収支計画
  - 別紙のとおり。
  
- 3 資金計画
  - 別紙のとおり。

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア．新規採用者・転任者職員研修

イ．接遇研修

外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

## 1 予算(年度計画の予算)

## 平成18年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	6,779
展示事業等収入	524
施設整備費補助金	0
計	7,303
支 出	
運営事業費	7,303
管理部門経費	1,482
うち人件費	332
うち一般管理費	1,150
事業部門経費	5,821
うち人件費	869
うち展覧事業費	1,857
うち調査研究事業費	210
うち教育普及事業費	480
うち国立新美術館開館準備等事業費等	2,405
施設整備費	0
計	7,303



## 2 収支計画

## 平成18年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,869
經常経費	5,869
管理部門経費	1,332
うち人件費	332
うち一般管理費	1,000
事業部門経費	4,428
うち人件費	869
うち展覧事業費	840
うち調査研究事業費	200
うち教育普及事業費	467
うち国立新美術館開館準備等事業費等	2,052
減価償却費	109
収益の部	5,869
運営費交付金収益	5,236
展示事業等の収入	524
資産見返運営費交付金戻入	23
資産見返物品受贈額戻入	86

### 3 資金計画

#### 平成18年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	7,303
業務活動による支出	6,777
投資活動による支出	526
資金収入	7,303
業務活動による収入	7,303
運営費交付金による収入	6,779
展示事業等による収入	524
投資活動による収入	0
施設整備費補助金による収入	0